

包括的支援体制構築のために 多機関・多職種協働は 「生活支援記録法 (F-SOAIP)」で！ — 栃木市の研修会から —

2018年3月1日、栃木市役所において、「生活支援記録法 (F-SOAIP) について」の研修会を開催しました。「他機関の協働による包括的支援体制構築事業」に取り組む栃木県栃木市地域包括ケア推進課の主催によるもので、多機関・多職種協働のための情報共有には経過記録のあり方が重要であるという、首長正博課長の先見性によって実現したものです。

栃木市では、多機関・多職種協働の課題はいろいろな相談に対応するときに、皆が情報をきちんと共有化して、共通の視点、共通の情報を持ちながら相談支援を進めていくことが重要だといいます。しっかりと記録を書き、皆が理解できるようにしていく。そのためには、それぞれの機関で書かれている相談の記録がきちんと同じ視点、同じ方向性や目線で誰が見ても同じように書き、同じように読み取れることを身につけ、記録・情報の共有化を進めることや、自分だけが、自分の職場だけが、自分の対応するサービス利用者だけがということ

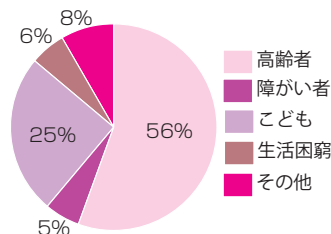


しゅなが
首長 正博 課長
(栃木市保健福祉部
地域包括ケア推進課)

ことでなくて、もう少し幅広い視点を持てるようにということで、生活支援記録法 (F-SOAIP) の研修が行われました。

当日の参加者は37名、栃木市の相談援助職で高齢者、障がい者、子ども等を対象とする多様な機関から集めました (図1参照)。

図1 参加者の所属機関



まずは現状の把握ということで、①経過記録の活用、②経過記録の課題についてリフレクションしたあと、ワークシートに日常行っている記録を記載し、包括的支援体制に有用な生活支援記録法の講義に入りました。

記録は何のために必要なのか、利用者支援、自身の専門性の向上、機関のための3つの役割があることを確認し、記録の開発について等、歴史的経緯を学んでいただき生活支援記録法の開発の経緯とその根拠を紐解きました。次いで、F-SOAIPの各項目とその記入法について理解を深めていただき、

鳥末 憲子 (埼玉県立大学 准教授) 冒頭でワークシートに記載した「日常行っている記録」を生活支援記録法 (F-SOAIP) で整理し、さらに清書して、隣席の参加者と記録を見せ合って、それぞれに意見を出し合っていました。最後に、講義最初のリフレクション①と②に続き、③学んだこと・変化したこと、④今後についてをまとめていただきました。(表参照)。

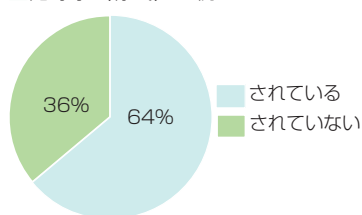
昨年度からで、約1,000人に生活支援記録法 (F-SOAIP) の研修を行う予定で、次年度も各方面での研修の予定が目白押しとなっています。生活支援記録法 (F-SOAIP) は、包括的支援体制の構築、ミクロ (個別支援)、メゾ (機関・集団) マクロ (地域) の各レベルに有用だと、評価を得ております。今回の研修会のアンケート結果をお伝えいたします。



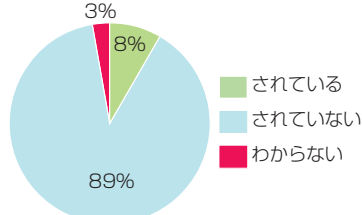
小嶋 章吾 (国際医療福祉大学 教授)

図2 所属機関での相談記録の状況

■記録票 (様式) の統一



■記録法の統一



■記録法統一の必要性

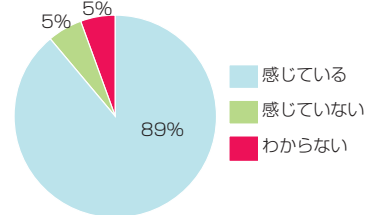


図3 生活支援記録法の研修について

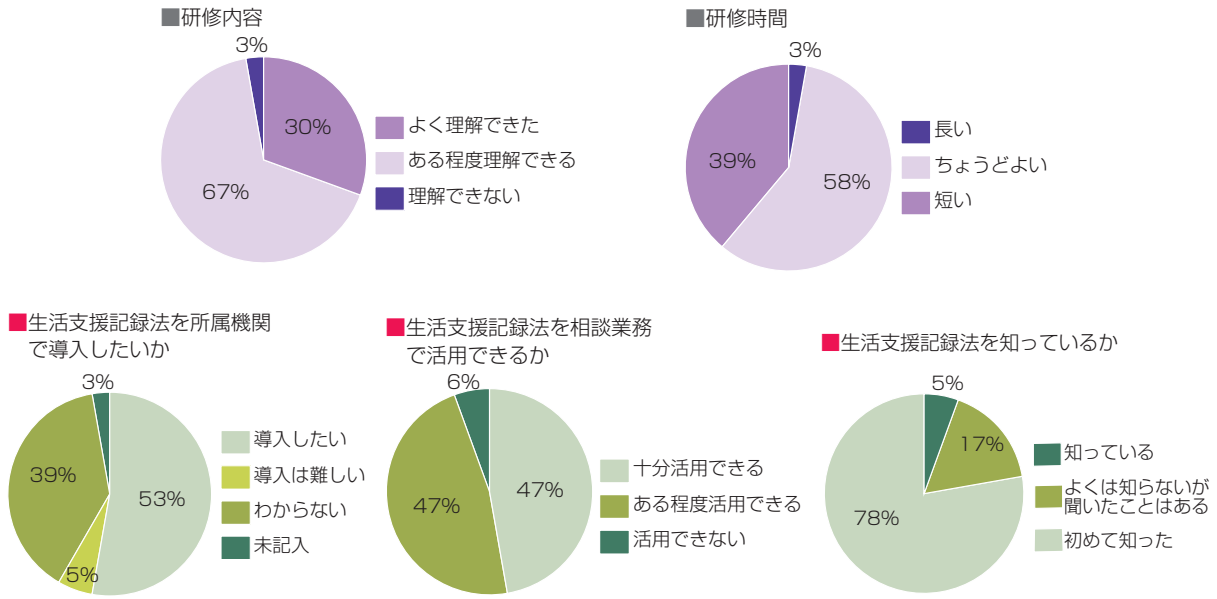


表 リフレクションー記録に関する①現意識、②現課題、③学んだこと・変化したこと、④今後について

所属・職種	①現意識	②現課題	③学んだこと・変化したこと	④今後について
障がいの相談員	支援の振り返り 次の支援に向けて参考にするため	困難なとき	記録は書きやすいだけでなく、 他者が誰が見てもわかりやすい 記録でなければということ を学びました	ぜひ参考にして活用させてい ただきます
学校教育課 スクールソーシャル ワーカー	時間の経過前と今ではどのよ うに変化してきたのか	目的に沿った支援ができてい るのか かなり時間が経過してしまっ て書くことあり	簡潔で見やすくわかりやすい	記録をためることなく過ごせ そう 残業が減りそう
保育事務	記録を残すためだけ	人それぞれ書き方が異なる	記録の書き方を知らなく苦労 していたが、書き方がわかる と同時に記録に対する抵抗が 減った	支援記録にあまり書くことは ないが、記録を残す際には 活用していきたいと思った
保健師	対象の方へ伝えた内容、支援 内容、経過を知る	記録の共有ができない	意識として記録することはと ても大切だと感じました 話したこと、聞いたことを分 かりやすく書くことが連携に つながることがわかりました	今日学んだ記録方法を広め ていきたい、まずは自分から 始めたいです
地域包括支援 ケアマネジャー	情報共有のため 5W2Hがわかる	共通様式はあるが書き方がそ れぞれ違う 長い文章だと読むのがイヤ になってしまう 経過が長いと書類がたまって しまう	文章をまとめる力がついた 簡潔化が大切だと気づいた	課題の整理ができ、支援方法 が明確化されると思う
地域包括支援 社会福祉士	センター内で共有、検討する 際の情報源 他機関と連携するときの材料	記録者の主観や視点、考えに 左右される	Iの重要性、またIIに対してのS やOを記録することでPを設 定した根拠を明確化できる	今日から記録する際にどの項 目に該当するのか意識して書 きたい
地域包括支援 保健師	訪問活動した状況の記録(ア セスメント)、ケース課題を整 理する(計画作成)	記録の記入に時間がかかる 内容の振り返りに時間がかか る(要約)	支援のやりとり、根拠対応等 が記録を意識することでア セスメント力をつけたい ぜひ導入したい	利用者の思いを大切にしま ながら支援していけるようス キルアップしていきたい 連携を深めていきたい

資料：「生活支援記録法（F-SOAI P）について」ワークより作表／2018年3月1日栃木市

本研修は、科学研究費補助金基盤研究(c)による「地域包括ケアを指向するソーシャルケアの職能団体基盤型IPWのモデル構築」(2013～2016年度、研究代表者 小嶋章吾)の研究成果の一環として実施したものです。

なお、小嶋章吾は栃木県医療社会事業協会会長として、また 嵩末憲子は栃木県ホームヘルパー協会会員として、とちぎソーシャルケアサービス従事者協議会のそれぞれ運営委員、企画委員として参画しています。

(本レポートは、office Kの城戸ユリ子の取材及び編集による。)